

YAMAKADO NEWSLETTER

NO.167

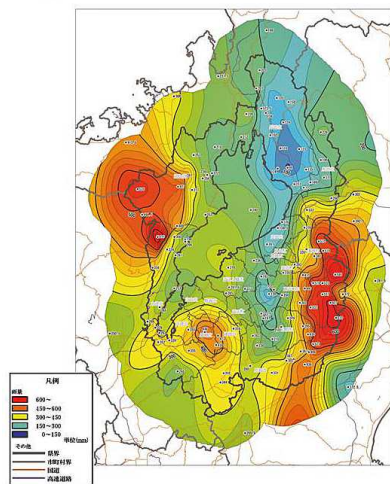
2013/10/15

山門水源の森を次の
世代に引き継ぐ会

伊勢湾台風（1959）以来の土砂流入

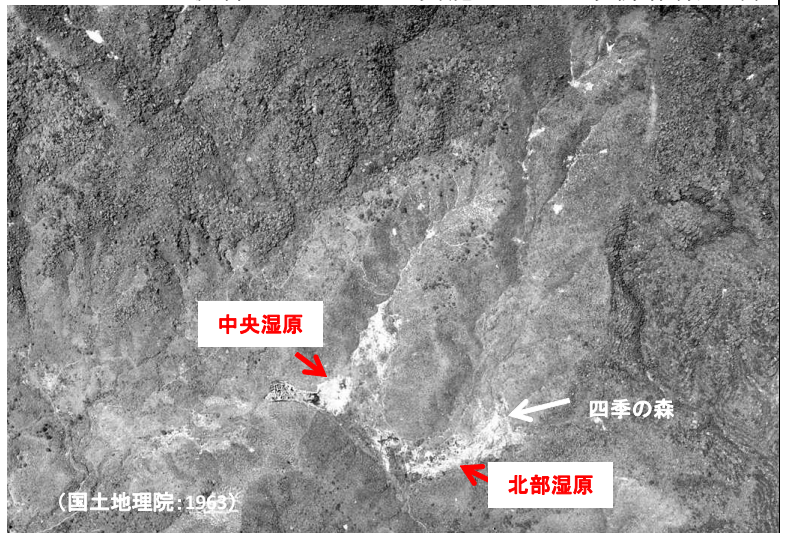


総雨量 9月15日00:00～9月16日24:00



雨量図：滋賀県土木防災情報システム、気象庁

9月15日～16日にかけて台風18号の降雨で滋賀県下には多大な被害が発生した。滋賀県が作成したこの台風に伴う総雨量図（左）から比良山地・鈴鹿山脈での降雨量が600mmを超えた。山門水源の森周辺では300mm前後（275mm：柳ヶ瀬アメダス）であった。この降雨で復元北部湿原には大量の土砂が流入した。これでも上流部でこれまでに実施してきた砂防作業が功を奏しており、これがなければ更なる流入があったことになる。このような湿原への土砂流入がどのくらいの頻度で発生しているのかを過去の空中写真でみると1963



(国土地理院:1963)



「守護岩」下部の崩壊地(13/09/19)

規模）に流入しているのがわかる。この年以前に山地崩壊をもたらすような雨量が観測されているのは伊勢湾台風（1959）である。このときの彦根での雨量は195.8mmであった。この雨量を比較するとほぼ同程度と推測される。今回の山門水源の森での崩壊は、伊勢湾台風時よりも小規模で結果として湿原への流入土砂量が少なかった。北部湿原東側の沢側面には、腐植土層と土砂層が何層も観られる。このことは過去何回もの今回のような土砂流入があったことを示している。



既設堰堤は砂防効果を発揮(13/09/17)



湿原土砂流入口の土砂を撤去してくれた
西浅井中陸上部員(13/09/21)

9・10月は例年一般来訪者が少なく保全作業に集中できるはずのシーズンですが、今年はそれなりの準備



中国湖南省からの視察団(右側の4名)(13/09/17)



「未来遺産」現地視察(13/10/08)

が必要な来訪が続きました。1つは中国湖南省からボランティア活動として環境保全をどのようなシステムでどのように行っているかを見たいということで4名の行政職員が来られました。日本ユネスコ協会は「未来遺産運動」というを行っています。その趣旨は「長い歴史を超えて人々が紡ぎ続けてきた文化遺産や、自然とともに生きる知恵や工夫の中でつくりあげてきた自然遺産という豊かな贈り物に光を当て、それらを未来に伝えていこうという人々の意欲を活性化させることによって時代を切り拓いていくことを目的としています。」この運動に応募しないかとの誘いがあり応募しました。その審査のための現地視察に審査員(大学教授)と本部職員の2名が来られもりを案内しました。



天然更新試験地本年2回目の調査(13/09/30)



間伐の現地学習会(13/09/19)

これらの合間をぬって天然更新試験地の本年2回目の植生調査を7日間実施しました。昨年秋・本年春に続いている調査です。調査結果は、本年度の報告会までには集計されますが有意義な結果となるはずです。また植林地の間伐を行う必用があり、湖北森林事務所の職員の方に現地指導をして貰う学習会も実施しました。訪問者に薪炭林だったことを理解して貰いやすいように炭窯跡の整備も始めました。リンドウが咲きはじめました。



森林キーパーの手でコース整備も(13/10/03)



炭窯跡の整備(13/10/07)